

IT パスポート試験 本試験分析と対策法

1. IT パスポート試験とは

(1) どのような試験なのか

IT パスポート試験とは、新試験制度のレベル 1 に相当し、

職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を測る試験です。試験内容は、

4 択の問題 100 問を、

2 時間 45 分

で解くというものです。

難易度的にもそれほど高くありませんから、学生の方は在学中に取得することをお勧めします。この資格を得ていれば、「コンピュータを扱う、または利用するための最低限の基礎知識をもっている」と、就職活動でもアピールすることができます。

さらに、「IT パスポート試験」からステップアップして、「基本情報技術者」を取得すれば、さらに就職で有利になるでしょう。

また、ユーザ側(コンピュータを利用する側)や、文系の方で、レベル 2 の基本情報技術者試験(午前試験と午後試験(応用)がある)はハードルが高いと感じる方は、その前のステップとして IT パスポート試験で基礎を学ぶことをお勧めします。それを、次の基本情報技術者試験に生かしてステップアップしてはどうでしょうか。

(2) 合格するためには何点取ればいいのか

IP 試験では、合格するには、

- ・ 総合得点が、満点(1,000 点)の 60%以上
- ・ 各分野別得点が、分野別満点の 30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で 6 割以上得点するだけでなく、ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の各分野で、基準点をクリアしなければならないのです。

(3) 今後の動向～CBT 化に向けて～

今回の試験の問題冊子に以下の内容が掲載されました。

お知らせ

1. システムの構築や試験会場の確保などの諸準備が整えば、平成 23 年 11 月から IT パスポート試験において CBT※方式による試験を実施する予定です。
2. CBT 方式による試験の実施に伴い、現行の筆記による試験は、廃止する予定です。
3. 詳細が決定しましたら、ホームページなどでお知らせします。

※CBT (Computer Based Testing) : コンピュータを使用して実施する試験。

2. 22 年秋・本試験問題の傾向

(1) 出題分野

ストラテジ系，マネジメント系，テクノロジー系の各分野の出題数は，

ストラテジ系：35 問（22 年秋：小問形式 32 問＋中間形式 3 問）

マネジメント系：25 問（22 年秋：小問形式 20 問＋中間形式 5 問）

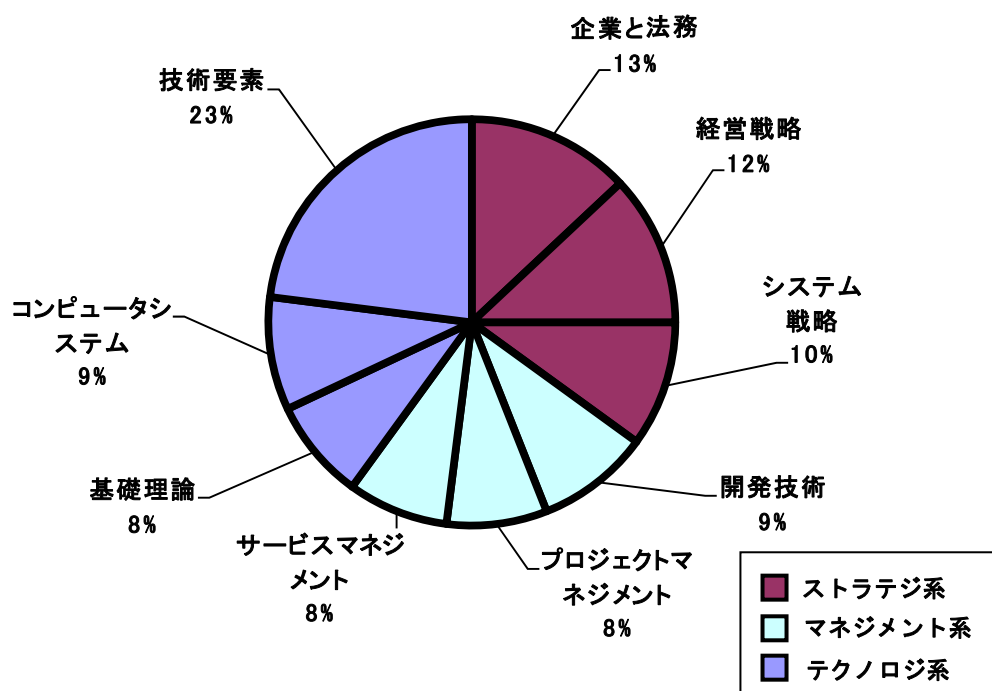
テクノロジー系：40 問（22 年秋：小問形式 36 問＋中間形式 4 問）

となっており，「35：25：40」の出題比率には変化がありません。

これをさらに細かく分けた大分類別の 22 年秋の出題比率，及び過去 3 回の平均出題比率は，次のようになっています。

大分類	22 年秋出題比率	平均出題比率	平均出題数
企業と法務	13.0%	13.0%	13 問
経営戦略	12.0%	12.0%	12 問
システム戦略	10.0%	10.0%	10 問
開発技術	12.0%	9.0%	9 問
プロジェクトマネジメント	6.0%	8.0%	8 問
サービスマネジメント	7.0%	8.0%	8 問
基礎理論	7.0%	8.0%	8 問
コンピュータシステム	9.0%	9.0%	9 問
技術要素	24.0%	23.0%	23 問

出題テーマ構成



● 小問形式

基本的にはシラバスに沿った問題が中心であり、情報処理技術者試験では定番のテーマが多く出題されていますので、まったく見覚えのないテーマは少ないと感じるでしょう。

22 年秋の試験では、共通フレームに関する問題は、ストラテジ系、マネジメント系を合わせて 3 問の出題があり、システム方式設計の内容などが問われています。一方で、従来の“外部設計”や“内部設計”などの用語も使用されていたので、両方の用語・知識を学習しておくべきです。

[22 年秋の傾向]

① ストラテジ系

シラバスに沿った出題が中心であり、全体としては、CIO, CSR, キャッシュフロー計算書、バランススコアカードなどの定番テーマが多く、バランスの取れた出題といえます。初出題テーマでは、「オフショアアウトソーシング、グリーン IT、フォロワ」などが出題されましたが、その割合は多くなく標準的といえるでしょう。

また、条件等を提示して解答させる長めの問題なども出題されていました。

② マネジメント系

出題テーマは各大分類の中からバランスよく出題されていますが、今回は、“開発技術”がやや多めであり、その分“プロジェクトマネジメント”が少なめになっていました。

初出題テーマは「セキュリティワイヤ」のみであり、ほとんどが用語を問う問題と選択肢から正しい説明文を選ぶ問題であり、基礎知識を重視する構成となっています。

③ テクノロジ系

セキュリティの出題割合が高い傾向にあります。情報セキュリティポリシー、機密性や完全性、暗号化技術、認証、攻撃、ISMS といったように、幅広いテーマが多岐に渡って出題されていますので、今後も「セキュリティ」は重点項目と考えるべきです。

他の中分野では、バランスのとれた割合で出題されています。特徴的なところでは、今回も表計算ソフトが出題されましたので、1 問程度の出題は予想しておくべき、と考えてよいかも知れません。データベースでは、「結合の結果」「結合に必要な属性」など、SQL 文を使用せずに「結合」を扱った問題が出題されていました。

また、テクノロジ系ということで、「図表や問題文の条件から操作や計算を行うことで解答を得る形式」の問題が多く出題されています。テクノロジ系では、知識はもちろんですが、こういった応用的な問題に対処する力が必要でしょう。

初登場テーマとしては、「シングルサインオン、排他的論理和(論理演算)、シンクライアント」などが出題されています。

● 中間形式

IT パスポート試験の間 89～100 では「1 問中に 4 設問」の形式で中間が 3 問出題されます。中間は、問題文が長く事例などを用いた応用的な問題となるため、基礎知識に加えて、問題読解力、分析力、計算力などが必要となります。

多少の偏りがみられることもありますが、基本的にはストラテジ系、マネジメント系及びテクノロジー系の全分野から満遍なく出題されています。

よく使われるテーマや図法には、データベース、DFD、流れ図、表計算ソフトなどがあります。

[22 年秋の傾向]

22 年秋の中間では、データベース、DFD、流れ図などの過去 3 回の試験でよく使われていたテーマや図法は扱われず、問題文と図表から解答を導き出すタイプの問題でした。

〔中間 A〕 ソフトウェアのテストデータ(マネジメント系 3 設問、ストラテジ系 1 設問)

テストデータとその出力結果に関する問題です。設計理由、出力結果の予想及び検証など様々な角度からテストデータについて問われています。

〔中間 B〕 入室管理システム(テクノロジー系 4 設問)

入室管理をテーマとしたセキュリティの問題です。施設と対象者に対する許可区分(入室の可否)の設定・変更が問われています

〔中間 C〕 新システム導入の作業計画(マネジメント系 2 設問、ストラテジ系 2 設問)

作業時間や作業順序を問う問題です。アローダイアグラムを提示しておらず、表の先行作業などの情報からクリティカルパスや総所要時間を求める構成になっています。

(2) 22 年秋・難易度の特徴

全体の難易度は、前回(22 年春)と同等であるという印象です。難しかった 21 年秋と比較すると、難易度はある程度安定してきたと思われます。

聞き方を工夫した問題も多く出題されていましたが、基本的には標準的な知識で解ける問題が多く、テキストによる学習と問題演習を積んできた方ならば、時間内に合格基準に達する正答数を得られたでしょう。

●小問形式

今回も、過去 3 回と同様に、過去の情報処理技術者試験からの流用は少なく、ほとんどが新作の問題でした。したがって、過去問題の丸暗記といった対策では対応は難しいといえます。

22 年秋の特徴として、「複数の用語の組合せ」や「3～4 個の記述から適切なものをすべて挙げたもの」を選ばせるといった、より多くの知識を要する問題が多く出題されていました。また、全体として、単純に用語知識を聞く問題だけではなく、「～の活動事例として、適切なものはどれか」といった“聞き方を工夫した問題”や、“提示された図や条件などをもとに解答する問題”などの割合が多いのも特徴的です。

しかし、複数の知識といっても、IP としての知識範囲を大きく逸脱したものはないので、テキストにより体系的に知識を得ていれば十分対応は可能です。したがって、小問全体での難易度は、標準的といえるでしょう。

小問を分野別に見ると、ストラテジ系では初出題の用語や手間のかかる計算問題を除けば、シラバスに沿った問題が多く、ごく標準的な難易度と思われます。

マネジメント系では、問題管理やプロトタイピングなどの基礎的な知識を問う問題や、問題文から解答を類推できる問題が多く、解き易いブロックであったと思われます。

テクノロジー系では、“提示された図や条件などをもとに解答する問題”が他の 2 分野より多く、応用力も求められています。その中でも、データベースの一部や表計算ソフトの問題など、基本情報技術者試験の問題より難易度が高い、または同程度と思われるものもありました。しかし、解き易いように工夫されている問題や、チェックディジットの計算問題のように「手間はかかるが丁寧に計算(操作)すれば解答できる」という問題もあり、他の知識問題も含めた全体的な難易度は、標準～やや難といえます。

●中間形式

中間全体では、平均すると難易度は標準的という印象です。問題ごとの難易度では、中間 A がやや易しい、中間 B が標準的、中間 C が標準～やや難、となります。

中間 A では、料金表と出力結果表の対応を確認していけば、容易に解答を得られたでしょう。中間 B は、ページ数は多いですが、情報量はそれほど多いわけではありません。ただし、問題文の記述が重要であり、大事な記述を見逃すと解けなくなるものもあります。中間 C は、日程計画の問題ですが、表と文章だけでアローダイアグラムの図がないため、やや解きづらかったと思われます。

3. 試験の対策

(1) テキストで基礎知識の習得をしっかりと

まず、シラバスやテキスト、参考書に載っている用語は一通り把握しておきましょう。しかし、単純に用語の定義を覚えるだけでは、今回の試験に見られる事例や計算のような問題に対し、対応が困難です。合格基準に達するためには、より詳しく考え方、仕組み、使用する場面、効果・役割などの関連知識を身に付けることも重要になります。

しかしながら、試験全体の出題範囲は広いですから、限られた学習時間の中で効果的に学習しなければなりません。そこで、演習問題を解くとき、用語や文章正誤の問題であれば、正解選択肢だけを見るのではなく、それ以外の選択肢についてもしっかりと確認・把握するようにしましょう。

また、計算問題については、基本公式や解法パターンの確認及び応用問題の演習を行う時間を学習中に設けて、十分に攻略を行うようにしましょう。

(2) インプット／アウトプットのサイクルをバランス良く

テキストによるインプット学習、演習によるアウトプット学習をバランス良く行い、

インプット → アウトプット → 再インプット → …

というサイクルによって知識を定着させていくことが重要です。

(3) 弱点分野を作らない

IP 試験では、合格するには、

- ・ 総合得点が、満点(1,000点)の60%以上
- ・ 各分野別得点が、分野別満点の30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で6割以上得点するだけでなく、ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の各分野ごとに、基準点をクリアしなければならないのです。学習を始めたばかりの頃は苦手な分野もあるかもしれませんが、試験本番までには弱点を克服し、各分野とも満遍なく得点できる力をつけましょう。

(4) 中間対策では、演習経験が重要

中間は、特別な知識をあまり必要としない代わりに、「小問より少し長い問題文を読んで、そこから判断する」という応用力が求められますので、問題演習によって慣れておくことが得点に繋がります。

(5) 演習問題を解いて解いて解きまくる！

学習後半は、演習を中心とした対策に切り替え、解けなかった問題や、あやふやな知識はそのつどテキストなどに戻って確認していきましょう。ただ解くだけでなく、解説を利用して他の選択肢の確認をすることも効果的な学習になります。

(6) 公開模試で腕試し

公開模試を受験し、「2時間45分で100問を解く」ことを経験することが必要です。また、模試により、それまでの試験勉強が順調であるかどうかのチェックをしましょう。